

※ がつ 4月1日 から 出羽庄内国際村は 毎週月曜日が 休館となりました。

村だより

DEWA SHONAI INTERNATIONAL FORUM



12月 ^{がつ} チャリティダンスパーティー



とくしゅう
特集

しゃしんか
写真家

ながくらひろみ
長倉洋海

こうえんかい
講演会

ふんそうち
紛争地で出会った子どもたち

● みなさんこんにちは : ^{こくさいむら にほんご きょうしつ} 国際村日本語教室

出羽庄内国際交流財団会報

vol. 39

Quarterly



みんぞくかん

アマゾン民族館

みなみたいへいよう

しぜん

ぶんかてん

南太平洋の自然と文化展 3月4日(土)から

かいがんじかん

開館時間 9:00~17:00 毎週土曜日は、小・中学生入館無料!

2005.12.11(日) 出羽庄内国際村ホール

『つた子どもたち』

第一部 スライドトーク『紛争地で出会った子どもたち』

フリーのフォトジャーナリストとして活躍中の長倉洋海さんを講師にむかえ、『紛争地で出会った子どもたち』と題し、第一部はスライドトーク、第二部

Aパネル展も同時開催され、それぞれの活動を紹介いたしました。また、書籍の販売コーナーも大人気で、買い求めた本には長倉さんが丁寧なメッセージを



【長倉洋海氏 プロフィール】

北海道釧路市生まれ。1980年からフリーのカメラマンとして、世界の紛争地を訪れ、そこに生きるたくさんの人に出会い、写真を撮り続けている。
写真集『マスード 愛しのアフガン』では、第十二回土門拳賞を受賞。著書には『フォトジャーナリストの眼』などがある。

アフリカ、アマゾンなどの子ども達の姿を紹介しながら、長倉さん自身が感じた想いを熱く語ってくれました。

当初、戦争や紛争の厳しさや、そこに住む人達の泣き叫ぶ悲しげな写真を撮るつもりでいたのですが、実際に訪れてみると、

悲しみを上回るほどの笑顔に出会えたそうです。その時、「新聞やテレビで伝えられるものが全てではない。紛争や戦争、飢餓で苦しむなど、自分達が同じ立場にいないければ、遠い世界のことだと思ってしまう。だから等身大の彼等の姿を伝えたい。」と、戦場の厳しい部分を撮ろうと思っていったのが、実際に行ってみて気持ちが変わっていった様子を語りました。また、スライドに映る子ども達は決して豊かな環境には生きてはいませんが、

与えられた環境を一生懸命に生きる姿に、輝き・生きるために燃焼する力のようなものが垣間見え、そこにひかれて写真を撮り続けてきたそうです。

長倉さんは最後に、「言葉は出来なくても、コンピュータがなくとも、人を人として認められる人。そして民族、文化の違いをこえ、争うのではなく一緒に生きていく人。人を愛する気持ちや尊重する気持ちがある人と人が付き合っていく第一歩なのではないか。そういう人をインターナショナルリストと呼ぶのでは。」と締めくくりました。長倉さんは講演会中、『まずは出会うこと』という言葉を通して、この言葉の意味が皆さんにも伝わったのではないのでしょうか。

あいにくの雪模様にも関わらず、集まってくださった参加者の皆様



あつ



参加者全員が輪になって、お互いの意見をぶつけあう！



写真家 長倉洋海 講演会&ワークショップ

『紛争地で出会』

ワークショップを企画・運営してくれた東北公益文科大学公益学部公益学科三年、飯田美智子さんから感想が届きましたので紹介いたします。

午前のスライドトークでは、長倉さんは写真に写っている人々のことを鮮明に覚えていて、まるで写真一枚一枚にドラマがあるようでした。写真に写る人々は生き生きとしていて、長倉さんの人柄が、彼らの笑顔や素の表情を引き出させたのだと感じました。

私が一番印象に残ったのは、長倉さんからの私達へのメッセージでした。「納得のいく人生を送れるのはほんのひと握り。いろんな事を経験することが死への恐怖を薄れさせ、生きる行程につながる。あまり世間の刻む時間に縛られない事。けれどゆっくりしすぎると時間は早く過ぎていく。まず行動を起こす。自分の好きなもの、好きなことを見つけて。そして一番大事なのは『出会う』こと。死ぬ時はこれが浮かぶはず。」

このワークショップを終えて、私はこれから一期一会を大切にしていこうと思えました。そして、様々なことを経験し、濃い人生を送りたいと思います。



第二部 ワークショップにて。質問ひとつひとつに丁寧にこたえてくださいました。



参加者の皆さんの声をいくつか紹介したいと思います。

- ◎ 過酷な状況でもキラキラした瞳をした子ども達の写真を見たり、彼等の生活を聞くことができて良かった。
- ◎ 長倉さんの語りは本当に良いです。人間としての長倉さんの懐の深さ、暖かさを感じました。
- ◎ 援助のあり方について、もっと気負いするイメージが強かったが、「まずは出会うこと」という言葉にはっとさせられた。
- ◎ (紛争地とは) やはりテレビやインターネットで見た、聞いたこと(悲惨さなど、辛く苦しいイメージ)が自分にとって全ての情報でしたので、スライドから

こぼれる笑顔や元気な表情はとても衝撃的でした。
◎ 壁をはらったら、理解し合えるという言葉が印象的。

この講演会を企画・運営するにあたり、たくさんの方々に協力をお願いしました。最初に、長倉さんを紹介くださった、会わせてくださった方に心から御礼を申し上げます。そして、悪天候の中、ご参加、ご協力くださった皆さん、本当にありがとうございました。

「主催」

- ・独立行政法人国際協力機構 東北支部
- ・協力隊を支援するやまがた地球家族の会
- ・財団法人山形県国際交流協会
- ・財団法人出羽庄内国際交流財団

第二部 ワークショップ

参加者の声

でのできごと

アメリカでのボランティアの認識は日本のもとは少し違い、ヨーロッパ人が移民として来た時からお互いを助け合わなければならず、その考えが社会の中で広まっていたようです。またボランティアをした理由としてアメリカの

昨年十二月十日、出羽庄内国際村を会場に、「アメリカのボランティア精神から見えてくるもの」と題して、ボランティアを考えるセミナーを開催しました。

セミナーの前半では、アメリカ・コロラド州在住の村治孝浩さんが、アメリカのボランティア事情を紹介。個人だけでなく、大きな企業であればあるほどボランティアについての関心を持っていることなどが紹介されました。「コミュニケーション・フード・シア」という取組を例にあげ、賞味期限切れのまだ食べられる食品を有効に使い、地域の教会などに送られるようなボランティア活動のシステムが紹介されました。

かけ作りや気軽に始められる機会を設けることなどが大切ではないか、ということなどが参加者を交えて話し合われました。



参加者をまじえての意見交換



後半は鶴岡市ボランティア連絡協議会会長の佐藤美智子さんが加わり、庄内でのボランティア事情について話題提供をしていただきました。ボランティアの高年齢化、人数が確保できないこと、運営資金の確保が難しいことなどの問題点があげられ、ボランティアの活動そのものに興味を持ってもらうためのきつ

ボランティアを考える 12/10(土) アメリカのボランティア精神から見えてくるもの

英語コミュニケーションセミナー 12/11(日)



二人の息の合った授業

毎回好評の、大人のための英語講座。今回もコロラドから、日系企業などを対象に異文化コミュニケーションのセミナーを開催している村治孝浩さん、さらにESL(第二言語としての英語教育)専門のデイリー・ブルーンさんを講師に招き、一日英語に浸る「英語コミュニケーションセミナー」を開催しました。今回は庄内一円から二十八名の参加がありました。

一時間目はデイリーさんによる発音、アクセントの授業。デイリーさん自作のメロディでギター演奏に合わせて英語らしいアクセントをみんなで歌いながら身につけるなど、ユニークな内容でした。またESL専門家ということで、英語を母語としない参加者にもわかりやすい説明で、日本語の通訳がない中でも参加者は英語の発音のコツをつかんだようでした。

二時間目、三時間目は村治さんが、スラングなどを含む日常的によく使われる表現な



熱気あふれる教室

どを取り上げて説明。「使いこなそう、アメリカ英語のカルチュア表現」と題して、短い会話形式でより自然な表現を学びました。また、日本語の中で使われている様々な「日本語英語」の意味の違いなどについても説明し、日本で使われているカタカナ語と、もとの意味とのズレを確認しました。

終了後のアンケート結果をみると「とても楽しく学ぶことができた」「これからも英語の勉強を続ける意欲がわいた」「一般的な英語セミナーと、見る視点、考える視点が違っていて面白い」などの感想が寄せられました。来年度の開催を期待する声もあり、英語を学ぶ気持ちを新たにしたい一日となりました。

国際村これま

パキスタ
ン北東部・
カシミール
地方で十月
八日、M
七・六の強
い地震が発
生しました
地震による
犠牲者は七
万人を超え
るとされ、
支援の届き
にくい山岳地帯では、厳し
い冬を迎えています。そこ
で、何か少しでも自分たち
でできることはないか、と
いう声があがり、パキスタ
ン大地震被災地支援のため
のチャリティーイベントが企
画されました。

チャリティーイベント
12/18(日)

パキスタン大地震 被災地支援のための
～1円でも多くパキスタンへ～

チャリティーイベント実行委員会 坂東 清一

「新潟・スマートラ・パキスタン」

チャリティーイベント実行委員長 坂東 清一

ほぼ一年の間に忘れる暇なく起き
た地震禍。これほど心を痛めながら
も対岸の火事としてしか見て来ず、
何もしないのはなんなんだと、多く
の人が感じていた事でしよう。そこ
で国際村の十年余りの活動の積み重
ねが果たした成果は大きい。稀にみ
る大雪と吹雪の日にも多くのボランテ
ィアスタッフが力を貸してくれ、三
回目の国際村チャリティーイベントに
対して協力を惜しまない多くの市民
の方々の理解と協力があった事に感
謝と感激。被災地パキスタンでは復
興もままならない中、ひたすら春を
待ちながら酷暑に耐え忍んでいるだ
ろう時に私達は寒波とはいえ暖房の
きいた国際村ホールでのイベント開
催でした。

中国に「一方有難八方支援」とい
う言葉があります。世界中の人々が
自発的に一人一人の力は小さくとも
救援のために行動を起こすことは、
決して小さいことではありません。
私達の小さな力が被災地の大きな
励みの一部になれるよう、今後悲
しい天災が起きませんように祈りな
がら。

医療・司法通訳者の養成講座

座内を中心とした

昨年九月、以前より要
望のあった「医療・司法
通訳者」の研修会が始ま
りました。

国際村には外国出身者
のための相談窓口があり
ますが、地域在住の外国
出身者が増えるなか、健
康や病院のこと、法律に
関わる相談や通訳の要請
が少なくありません。ま
た外国語ができる日本人
が増えているだけでなく、外
国出身の方々からも、日本語
と母語を使って活動がしたい
という声も出ていました。そ
こで、酒田市国際室、庄内総
合支庁企画振興課の協力をえ
て、コミュニケーションの中で活動
できるボランティアの養成を
始めることになりました。

最初の養成講座は、全国で
も先駆的に医療通訳の養成と
派遣を行っている山形市の国
際ボランティアセンター山形
(IVY)の西上紀江子さん
を講師に招いて行われました。
午前の部では、コミュニテイ
通訳の基本、通訳の力を磨く
学習の仕方などを学び、午後
からは通訳派遣などのシステ
ム作りについてのお話。そし
て参加者同士の情報交換を行
いました。庄内一円から約五
十名の参加者が集まり、地域
における通訳の役割について
理解を深めました。

国際村では随時通訳ボラン
ティアを募集しています。日
本語を含む二ヶ国語以上を話
せる方が対象です。通訳のこ
とや、生活に関わる事柄につ
いて理解を深める勉強会を開
催しますので、興味のある方
は国際村事務局にご連絡くだ
さい。



アマゾン民族館特別展

みなみ たい へい よう し ぜん ぶん か てん

南太平洋の自然と文化展

3月4日(土)オープン♪



毎年、アマゾン以外の地域の文化を紹介しているアマゾン民族館特別展が、また三月に新しい展示へと変わります。一九九五年から始まった《天国に一番近い島》ニューカレドニアのラフオア市と鶴岡市の友好都市提携が十年を迎えた事を記念した『南太平洋の自然と文化展』です。

今回の展示はニューカレドニアやバヌアツの他、二〇〇四年に館長が訪れたパラオなどの新しい資料を加えた、彩り豊かな楽しい展示となっております。南太平洋の伝統的な生活用具や儀礼用具、カヌーやストーリーボード、太平洋芸術祭の写真、エキゾチックなたくさん貝などを見ながら「南海の楽園」を体験しましょう！

オープニングのご案内

平成18年3月4日(土)

午前10時

民族館内でオープニングセレモニー、テープカット、館長による「南太平洋の自然と文化展」解説など

午前11時

国際村ホールでフラダンスのステージ、ニューカレドニア観光局支局長・白石博英さんによる講演

入館料

三月四日(土) 当日のみ無料

わたしたちが踊りま〜す

南太平洋のダンスといえば、パツと思いつくのは皆さんご存知のフラダンスですね。「フラ」とは「踊る」こと。あの優雅な手や腰の動きの一つ一つが、物語を持っているそうです。

オープニングセレモニーでは、地元鶴岡の「マプアナ・フラサークル」の皆さんによる素敵な「フラ」が十一時より楽しめます！皆さん、来てくださいね。





Information Corner

じぎょう
～ これからの事業 ～



2/12 (日) 新春を祝う会

出羽庄内国際村日本語教室を主体とした『新春を祝う会』が行われます。卓球をしたり、ミニコンサートがあったりと催し物がたくさんあります。

自慢の料理などを持ち寄って、楽しく賑やかに行われます。もちろん一般の方の参加も可能です。

- ・時間：11:00～16:00
- ・場所：国際村ホール
- ・持ち物：1人1品持ち寄り(飲み物も可)



2/21 (火) フレンドシップサロン

～ジャパンウィークに参加して～



ドイツ編の様子

迎え、あれこれにぎやかに意見交換できるお話しサロン。

今回は、国際親善協会主催で行われている『ジャパンウィーク』に参加された、鶴岡市在住の松森早智さんと伴和香子さんのお話を伺います。『ジャパンウィーク』とは、日本の郷土芸能、生活、美術、音楽、工芸、スポーツなどを通じて日本を紹介するプログラムです。みなさんお話を聞きにきてください。

- ・時間：18:30～20:00
- ・場所：国際村内喫茶店「きっさこ」



2/26 (日) 第2回外国語で学ぶ世界の料理教室～カナダ編～

この講座は、各国の方が、それぞれの国の言葉で身近な料理を教える教室です。第1回目の『中国編』に引き続き、第2回目の外国語で学ぶ世界の料理教室は『カナダ編』。

英語とカナダ料理が一緒に学べる講座です。講師はカナダトロント出身のジェフリー・ピリングさんです。英語が話せない方も、料理が苦手な方もぜひ参加してください。



中国編の様子

・時間：10:00～13:00

- ・参加費：3,000円(材料、資料代込み)
- ・申し込み開始日：2月17日(金) 9:00より

みなさんの参加をお待ちしています!

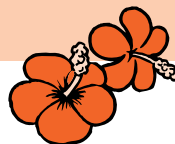


3/4 (土)

アマゾン民族館特別企画展オープニングイベント

～南太平洋の自然と文化展～

2006年3月4日(土) 10:00オープン!



世界の料理クラブ 会員募集

毎年大人気の『世界の料理クラブ』。3月7日より、18年度のメンバーの募集をします!

このクラブは、料理という身近な手段を通して、国際理解・国際交流の輪を広げています。外国出身の方々が講師となり、自国の料理を教えてください。メンバーは、料理が好きな人、食べるのが好きな人、国際交流をしたい人が集まっています。

活動内容は、年6回の料理教室を開いたり、国際村の様々なイベントに参加したりと楽しいことがいっぱい!ぜひ皆さんも、世界の料理クラブのメンバーになりませんか?

- ・会費：5,000円
- ・定員：20名
- ・申し込み開始日：3月7日(火) 9:00より



コロラド交流クラブ 会員募集

アメリカコロラド州のガールスカウトのみなさんと文通で始まった国際交流『コロラド交流クラブ』。好奇心旺盛な中・高校生が集まり、様々な活動をしています。現在のメンバーは、13名。今まで、何度かの文通やビデオレターの交換をしてきました。



今年度の活動内容は、手紙の書き方を勉強したり、日本の生活を紹介するビデオレターを作ったり、国際村のイベントに参加したりしました。平成18年度も楽しい活動を企画中です。

英語に自信がなくても大丈夫です!英語が好きでやる気がある方なら誰でも大歓迎!!興味がある方は国際村までご連絡ください。

- ・対象：中学3年生～高校3年生

【これまでの内容】

- ・英語で手紙の書き方の勉強会
- ・日本の生活を紹介するビデオレター作成
- ・チャリティイベントへの参加(クッキー販売)
- ・国際村イベントのボランティア活動

出羽庄内国際村 外国語講座(冬期)

前期・後期の2期制でスタートした今年度の外国語講座。一部の講座が終了し、1月からは、継続の講座と新しい講座がスタートしました!今からでも遅くありません!ぜひお申し込みください。お待ちしております。



【英語】やさしい中級英会話

かんばせーしょん喫茶店

【中国語】実用中国語中級

【韓国語】初歩からはじめる韓国語

【フランス語】ABCからはじめるフランス語

【ロシア語】楽しいロシア語初級

【料理】外国語で学ぶ世界の料理教室

ホームページアドレス



<http://www.dewakoku.or.jp/> あそびにきてね

みなさん

こんにちは



最初はボランティア 3名から

出羽庄内国際村の日本語教室は、平成六年より「国際村」の協力を得て開設されました。最初は山形大学の留学生や鶴岡市への訪問者を対象にした教室としてボランティア三名で設立。翌年には、国際結婚の増加に伴い外国出身女性を中心にした平日の日の中の教室を増設し、指導ボランティアも研修を受けるなどして増員していきました。その後、学習者も就職などにより平日や昼には受講することが難しくなってきたため、夜の教室を追加、また年々増加する外国人のために初心者向けのコースを増やしました。

指導ボラは30人、 組織の充実を目指して

現在は日曜日の午後、そして火曜日の夜の週二回、定期活動を行っています。最近様々理由で教室に来られない人のために自宅で訪問指導も開始。庄内全域から三十名のボランティアと八十六名の学習者が登録し一緒に勉強しています。

また、日本語を勉強するだけでなく「海の運動会」などの地域の催しに参加したり、花見や



活発な意見交換の場、全体会議

安心して暮らせる 地域づくりを目指して

芋煮会などの行事を企画・実施したり、国際村と共同で新年を祝う会などの大きなイベントも行ったりと、ボランティア全員がお互いに見え合い、協力し充実した教室づくりを目指して活動しています。

今年、日本語を習いたい人たちがもっと日本語教室に来やすくなるように旧櫛引町・羽黒町に日本語教室を開校しようと考えています。

今後もこのような日本語教室の活動の輪を広げ、日本語を通じてお互いが理解しあい、みんなが安心して暮らせるような地域作りの一翼を担っていききたいと思っています。

最後に、日本語教室で私達と一緒に勉強している方から今年の抱負を語っていただきました。

受講者の声

今年、日本に来て六年ぐらいたちました。日常会話には不自由しないけれども、さらなるステップ・アップするために、今年日本語検定一級に挑戦したいと思っています。

そのほかに国際村で、もっと他の国の人とふれあいたいと思っています。(中級クラス 女性)

今年、もっと日本語が上手になって友だちがほしい。もっと勉強します。日本語教室のみんなと、鶴岡市の施設見学をしたい。またスポーツをたくさんやりたいと思います。日本語教室と生徒だけでいろいろ話したい。(中級クラス 男性)



日本語レベルに合わせた小人数のグループ制クラス

ボランティアスタッフ募集

国際村では、国際交流関連の行事などをお手伝いしていただける方、ホームステイの受け入れをしていただける方、通訳をしていただける方を募集しています。詳しくは国際村までご連絡ください。

Eメールによるお知らせ

国際村では、毎月いろいろな催しを計画しています。その情報をいち早く皆様にお届けするために、Eメールによるお知らせをしています。

登録は国際村のホームページからでも登録できます。その他に、語学講座やイベントなどの情報も載っていますので遊びに来てください。

アドレス: <http://www.dewakoku.or.jp/>
Email: info@dewakoku.or.jp

あとがき

大雪の中での正月となりましたが、早くも二月に入ってしまった。今年も国際交流、国際理解等より一層の推進に向けて、各種事業に取り組んでまいります。で、地域住民の皆様、国際交流団体・ボランティアの皆様のご協力とご支援をよろしくお願い申し上げます。